

平成22年度第3回中原区区民会議摘録（抜粋）

日時・会場など

平成23年1月19日（水）午後3時から午後5時5分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 10名

<第2回運営部会報告に対する各委員からの意見>

- 子育てサロンは充実した活動ではあるが、本音を聞くとところまでにはなっていない。悩みを抱えたお母さんたちがどこに相談をしたらいいか、連絡先をどういう形で知らせていくかが重要なところではないか。
- 子育てするのは親であって、その親が元気な子育てをするために地域は何を手伝っていくかが**大切**であり、そのためにはどこを**を**応援したらいいか話し合っていくのが一番いいと思う。
- 子育てサロンに対して若い世代に協力してもらうにはどうしたらいいか考えていくべきではないか。

<資料4 中原区における子育て支援策に対する各委員からの意見>

- 地域に対して**、門を閉ざして来なくていいという家も多い。そういうときに行政から行っていただきたい。
- 枠があるために育児グループへ入れない方が結構いる。その人たちをどう救ってあげればいいのか疑問に思っている。
- 一貫してつながっていけないものがない気がする。そこを何とかできないか。複雑なことが起こり過ぎていて警戒心が強くなっているのではないか。
- 手を差し伸べたいと思っても、閉ざされてしまうとどうしてあげることもしないジレンマがある。コミュニケーション力、人間関係の構築が大事だが、私たち自身も意識して心がけていかないとそういったことにはつながっていかない。
- 女性はいろいろなところに出かけて行ってコミュニケーションをとっているが、男性はどうか。積極的に声をかけて、町の人たち、地域住民が交流できるようにするのではないか。
- コミュニケーションの場が大事。下沼部公園をコミュニケーションの場にしたいと思い、公園事務所に行き、樹木の伐採、バリアフリー化等をしてもらう取り組みをしている。そのための経費もかかるが、いろいろなことを考えたらその経費は非常に安いと思う。

- 中原区には公園が非常に多い。すべての公園に経費をかけるのは難しいが、ある一定の面積を超える公園に関しては積極的にやってほしい。それが防災を含めたつながりになっていくのではないかな。
- 行政にこうしてもらおう、ああしてもらおう以前に、小さなことでもいいから我々が何かできることはないだろうかと考えていけば、子育ての応援体制づくりという人づくりにもつながっていくのではないかな。
- 子育てサロンに出席しない人たちへの支援をどうするかが課題。行政でこんにちは赤ちゃん事業が始まっているが、これが子育てサロンにつながっていけばとてもいいことだと思う。
- 地域で、子どもたち、親とのきずなをしっかりと持っていないと、さまざまな問題につながってしまう。
- 町会のおじいさん、おばあさんが相談事を聞いてくれる場所が身近に必要だと思う。
- これから高層マンションが建ってくるとますますきずなが薄くなると思うので、対策をしていくべきではないかな。無縁社会は早く絶ち切っていければいいと思う。
- 園児との世代間交流については、園児の動きに高齢者の方は追いつかないので、対象とする世代は小学生と高齢者の世代間交流あたりが妥当ではないかな。
- 中原区まちづくり推進委員会の取り組みを通じて公園の中で世代間交流まで持っていきたい。老人が昔遊んだ小道具を使って世代間交流を公園の中でやっていくのも1つの手と思う。
- 3歳までのところの子育てサロンは本当に大事だと思うので、子育てサロンで親の交流や世代間交流に力を入れてほしい。
- 子育てサロンも大切だが、どうしてサロンに来られないかを考えると、集団が苦手であるなどの理由で行き渋る方がたくさんいる。その方たちが地域の町会の中で悩みを相談できる小さな交流の場も子育てサロンと並行してつくっていかないといけないと思う。
- 子育てサロンに限らず、来られない人をどうするかが一番の論点である。次回、地域における子育て応援体制づくりをテーマに、より深く話し合っていきたい。